

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (ICT 活用含む) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS2104						
2. 授業担当教員	駒井 隆治								
4. 授業形態	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係	教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)								
7. 講義概要	「学習指導要領」の改訂により、各教科、総合的な学習の時間等の授業改善が求められている今日、教師は「よりよい授業づくり」のために、さまざまな教育方法を学ぶことが求められています。この授業では、基本的な指導方法・学習方法及び情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能について学修するとともに、その方法の効果・問題点を整理し、教育実習時の授業場面に役立つ教育の〈方法〉を身につけることを目的とします。具体的には、授業場面の事例をもとに、〈方法〉への理解を深めると同時に、その工夫・改善のあり方について検討します。その上で、グループワークによる「模擬授業」を実施し、「授業づくり」の過程におけるPDCAサイクル (Plan [企画] -Do [実行] -Check [評価] -Action [改善]) を体験的に学びます。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中学校・高等学校教諭等を目指す学生に求められる基本的な教授学習理論を理解し、重要な用語について説明することができる。</li> <li>2. 基本的な指導方法・学習方法を理解した上で、教育現場で実践されているICTの活用事例や情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進を学び、「模擬授業」において実際にその方法論にもとづいた指導案を作成し、授業を展開することができる。</li> <li>3. 自ら実施した (あるいは他の受講生が実施した) 「模擬授業」の問題点を検討し、次の授業に生かすことができる。</li> </ol>								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 毎回、授業の最後にリアクションペーパーを提出する。</li> <li>② 期末試験は行わず、期末レポート (1,000字程度) を提出する。</li> </ol> この科目の学修には、上記①と②の提出及び毎回の授業への積極的な参加が必須である。 <b>【注】</b> 及び公休等で受講できなかった場合、当日の資料を熟読し200字程度のコментарを提出する。								
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 堀田龍也・佐藤和紀『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』三省堂、2021年第2刷 <b>【参考書】</b> 中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省) その他必要に応じてプリントを提示する。								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<b>● 成績評価の規準 (学習目標)</b> 基本的な教授学習理論を理解し、専門教科の授業づくりに生かし、模擬授業を実践し、授業改善に結びつけることができる。 <b>● 評定の方法</b> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1 日常の授業態度 (参加態度、発表・発言、学習状況等)</td> <td style="text-align: right;">40%</td> </tr> <tr> <td>2 課題レポート</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>3 期末試験</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> </table>			1 日常の授業態度 (参加態度、発表・発言、学習状況等)	40%	2 課題レポート	30%	3 期末試験	30%
1 日常の授業態度 (参加態度、発表・発言、学習状況等)	40%								
2 課題レポート	30%								
3 期末試験	30%								
12. 受講生へのメッセージ	この科目では、先人たちが築いた授業技術や教師の教育方法を踏まえ、ICT活用による教育の刷新によりこれからの社会に必要な資質・能力を育成する方法を学びます。近未来の日本の情報社会を支えていく教師の基盤となる授業を目指します。受講生には、より積極的な学修を期待します。								
13. オフィスアワー	初回講義時に通知する								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション 学習指導要領と授業 (第1章)	事前学習	教科書「第1章」を読み、わからない部分をチェックする。						
		事後学習	法令とカリキュラムの考え方をベースに授業が成り立つことを理解する。						
第2回	教育方法の原理と学習評価 (第2章)	事前学習	教科書「第2章」を読み、わからない部分をチェックする。						
		事後学習	教育方法の歴史を辿り、学習設計の理論、学習目標や学習評価の考え方を理解する。						
第3回	授業中の教師の意思決定 (第3章)	事前学習	教科書「第3章」を読み、わからない部分をチェックする。						
		事後学習	授業中の教師の意思決定の場面を考える、ICTを活用した授業における教師の意思決定について考える。						
第4回	授業における発問と指示 (第4章)	事前学習	教科書「第4章」を読み、わからない部分をチェックする。						
		事後学習	授業の技術として、発問・指示の原理・原則をまとめる。						
第5回	教科書活用の技術 —デジタル教科書の使用事例— (第5章)	事前学習	教科書「第5章」を読み、わからない部分をチェックする。						
		事後学習	授業の技術として、教科書活用の技術についてまとめる。						

第6回	教材活用の技術 —デジタル教材の活用事例— (第6章)	事前学習	教科書「第6章」を読み、わからない部分をチェックする。
		事後学習	授業の技術として、教材活用の技術—デジタル教材の活用についてまとめる。
第7回	教師による ICT 活用 (第7章)	事前学習	教科書「第7章」を読み、わからない部分をチェックする。
		事後学習	教師による ICT 活用のさまざまな活用事例を調べる。
第8回	学校放送番組の活用 —NHK For School の活用 (第8章)	事前学習	教科書「第8章」を読み、わからない部分をチェックする。
		事後学習	学校放送番組の活用事例を模擬授業を受け、さらに活用方法を考える。
第9回	思考力を育てる授業 (第9章)	事前学習	教科書「第9章」を読み、わからない部分をチェックする。
		事後学習	思考力を育てるための授業設計と授業の実際について調べる。
第10回	児童生徒による ICT 活用 (第10章)	事前学習	教科書「第10章」を読み、わからない部分をチェックする。
		事後学習	児童生徒による ICT 活用事例から学び、他の事例について調べる。
第11回	情報活用能力の育成 (第11章)	事前学習	教科書「第11章」を読み、わからない部分をチェックする。
		事後学習	情報活用能力育成に育成のための方策を考える。
第12回	情報モラル教育 (第12章)	事前学習	教科書「第12章」を読み、わからない部分をチェックする。
		事後学習	情報モラル教育のあり方について、さらに調べ追究する。
第13回	プログラミング教育 (第13章) —招聘講師による学校での実践を学ぶ—	事前学習	教科書「第13章」を読み、わからない部分をチェックする。
		事後学習	プログラミングの授業事例から学び、さらに他の事例を調べる。

第14回	校務の情報化（第14章）と学校の情報管理（第15章）	事前学習	教科書「第14章及び第15章」を読み、わからない部分をチェックする。
		事後学習	学校の情報化を推進し、業務改善について学び、生かそうとする。
第15回	ICT活用の学習指導案の作成	事前学習	ICT活用の学習指導案を作成する。
		事後学習	全15回の授業内容について整理し、レポート（1,000字）の準備を行う。